

企画名：東アジア地球市民村」事務局の設立に向けてのベースづくりおよび第2回東アジア地球市民村の開催

団体名：日中市民社会ネットワーク

1. 報告要旨

東アジア地球市民村は、平和、調和、分かち合いの精神を基礎とし、東アジアにおける持続可能な共生社会を広げることを目指すものである。日中韓台の各地域に軸を置き、東アジアの古くからの智慧と思想の共有、新しい価値観の創造、ソーシャルイノベーションの促進、そして、東アジアさらには世界への情報発信をする役割を果たそうと、2015年度も様々な活動を企画・実施してきた。

まず、6月に、日中韓台4地域でそれぞれの担当者を決め、6人から構成する事務局を確立した。それ以来、MLで連絡を取り合うと同時に、月に1回Skypeで運営会議を行ってきた。さらに、12月ごろに6人のなかで4人が日本に集まりオフライン会議を行い、共通認識を深めるためのスタディツアーを実施した。

一方、中国では、開催地を上海に決めてから、第二回東アジア地球市民村の開催に向かって、いままでの東民村コアメンバーを中心に運営会議を2ヶ月に1回の頻度で行い、12月に正式に実行委員会を立ち上げ、開催準備を進めた。

1年間、いろんな試練を乗り越え、2016年5月21～23日、上海の郊外にある自然が豊かな金沢鎮岑ト村で「多元共生：アジアの英知と持続可能な社会」をテーマに第二回東民村を開催した。東アジア地域から250人を超えた参加者たちはともに2泊3日の濃密な交流と学習の時間を楽しく過ごした。講演やプレゼンテーション、そしてワークショップ、ショートツアー、音楽ライブ、マルシェなど多様な形式で情報・経験を共有し、理解と友情を深めた。参加者は、中国国内だけではなく、日韓台三地域を中心とする海外からの参加者も50人を超えた。持続可能分野でよく知られているシューマツハカレッジの院長も初参加で発表された。24日に、一部の参加者は引き続き上海の近隣・昆山市にある有機農場と3000年の稲作歴史をもつ村を見学し、地域の住民と交流した。東民村のネットワークは広がっていきなかつた、その重要性も増しているように感じた。

5月のメインイベントのほかに、東アジアの若者が発起した上海南京平和巡礼(340km)や日本村民を訪問するスタディツアー、そして翻訳出版など東民村発のアクションを積極的に支援・実施した。

この三年間、東アジア地球市民村はゼロからスタートし、少しずつ知名度と影響力を持つようになってきた。時代特徴が強いメッセージ性、すべての人に開かれた姿勢、ボランティアによる柔軟なイベント運営、そして他団体・他地域が主催するイベントとの連携などを重視する東民村は、専門家から一般市民まで注目され、中間支援組織だけではなく、個人からも寄付金を受け、様々な人で支えるものとなってきた。東民村という共同体は形成しつつ、地域間連携の気運もこれからさらに高まっていくと信じる。

2. 成果物

1. 第二回東アジア地球市民村現場記録 [①「帰農生活について：日中韓農家の声を聞きましょう」](#) (2016.7.5「有機會」掲載)
2. 第二回東アジア地球市民村現場記録 [②「道はそれぞれ、すべて自分を知るから始まる」](#) (2016.7.10「有機會」掲載)
3. 2017 東アジア地球市民村映像 [「チョンチョンに」](#)
4. 上野由美子 [「多元共生～東アジア地球市民村@上海～」](#) (2016.6.1)

5. 上海南京平和巡礼 (2015.11 南京テレビ局 18Ch ニュース番組「標点」より掲載許可)
6. 榎田寒平 「中国巡礼 I」
7. 正木高志講演会 「日二元論と新しい文明」 (2016.12.27 「有機會」掲載)
8. 正木高志、朱恵雯 「慈愛」 2016 東アジア地球市民村昆山音楽会映像
9. Panman 「Asalato パフォーマンス」 2016 東アジア地球市民村映像
10. チャーリー宮本 「即興演奏」 2016 東アジア地球市民村映像
11. 東アジア地球市民村紹介記事 『ロハス』 (2017年2月号)
12. 加藤大吾氏活動紹介記事 『ロハス』 (2017年2月号)